



NEWSLETTER 2012 年 4 月 Vol. 5

AJWCEF からのご挨拶

皆様におかれましては平素より AJWCEF の活動にご理解とご支援を賜り、誠に有難うございます。4 月に入り日本では桜が満開を迎えていることでしょう。ブリスベンでは朝夕が涼しくなり、秋の気配が感じられるようになってまいりました。皆様ご存知のように、ここ南半球では日本とは逆にこれから冬を迎えます。

現在まで AJWCEF では成人や大学生の方向けに野生動物保護の啓発のためスタディーツアーやトレーニングをオーストラリアで実施したり、日本において大学でのセミナーや市民フォーラムを開催してまいりました。AJWCEF はオーストラリア連邦政府及び豪日交流基金の後援を受け、本年 2 月より新しい試みとして日本とオーストラリアを結ぶインターネット同時中継を利用し、環境教育に加え、社会及び語学教育を同時に行う中継教育を開始いたしました。この教育プロジェクトは次代を担うさらに若い世代の小、中、高校生を対象とし、普段目にすることの少ない海外の自然環境や野生動物のおかれた現状とそれに対する取り組みを中継を通し実際に観察し、地球環境を守るために何ができるのかを考えて頂く機会を提供する目的で実施しています。現在日本とオーストラリアの高校を一校ずつモデル校として選び、日本の高校はオーストラリアの環境施設と、オーストラリアの高校は日本の施設と中継で結び、前者は英語で、後者は日本語で中継授業を行っています（オーストラリアでは日本語を外国語として教える学校が多くあります）。

野生動物や環境保護は一部の専門家だけの取り組みでは十分な成果を上げることは難しく、多くの皆様が日頃から関心を持ち、身近なところから保護に努めていただく“草の根活動”が大切です。例えばオーストラリアの海には海がめが生息しています。この海がめたちが異物を餌と間違え飲み込むことにより死亡する例が多く見られます。この異物の多くは買い物などに使用するビニール袋なのです。専門家はこの原因を突き止めることに貢献をしますが、それだけで海がめを救うことはできません。海がめを守るためにはより多くの方がビニール袋を不適切に捨てないようにしなければなりません。そうです。社会全体が日頃からその意識を持ち、身近なことに気をつけることが何よりも海がめを救う大切な道なのです。

AJWCEF ではこのような情報を皆様に提供し、より広い社会の方がたの意識を高めるお手伝いを行っています。今後も AJWCEF の活動に対し、皆様のご理解とご支援を頂きますようお願い申し上げます。

AJWCEF

理事長 水野哲男

オーストラリア連邦政府と豪日交流基金は AJWCEF の新しい教育企画、オーストラリア日本間の環境及び野生動物保護に関する中継教育に対して後援しています。



Australian Government



豪日交流基金
Australia-Japan FOUNDATION

2012 年 2 月トレーニングコース（初級） レポート

鹿児島大学農学部獣医学科 2 年 金澤伯弘



木登りカンガルー

今回のトレーニングコース初級では、オーストラリアの実際の野生動物の現状やその保全活動を知り、

日本に居ながらでは出来なかった事を体験できたのは貴重な経験でした。実習では動物への扱い方に対する良い面と悪い面両方を見せて頂き、参加者が自分で何が大事であるかを考えさせるものでした。保護活動に関わるオーストラリアの人々の人柄や考え方、熱意に触れ自分の中で野生動物保護を深く考えようとする確かなキッカケとなりました。

Moggill Koala Hospital では、飼育が目的ではなく、治療したコアラを野生に戻し生態系を維持していくことを目的とした保護・救護活動をしていました。生態系を守るための生息地保護活動もしており、野生動物とヒトとの共存には、地域住民・行政・企業などとの連携が不可欠であり、全ての事柄は繋がっていて限定的な見方をするべきではないと感じました。



David Fleay Wildlife Park でも、オーストラリアの固有種の飼育のお世話をさせて頂きましたが、その固有種の多さや特徴的な身体を持つ動物たちには興味が尽きませんでした。また、University of Queensland の施設見学では、オーストラリアの獣医医療の水準や教育、野生動物保護活動を知ることができ、将来的に海外の大学も視野に入れていたため、海外の獣医大学への興味が一層増しました。こういった体験は、世界へのより広い視野を持つことに繋がりました。

密度の濃い 2 週間でした。野生動物保護は、様々な人との協力が不可欠であり、ヒトと動物両者に深く関わっていかなければならないものです。保護活動に自身も参加し、その活動の楽しさを知ると共に、理想的な動物保護を実施することの難しさも感じました。しかし、将来において生態系の維持はヒト・動物の両者にとって必要なことであり、自分

も微力ながら活動を手伝い、少しでもより良い環境を作ることを目指していきたいとも感じました。

AJWCEF のスタッフやオーストラリアの各施設の方々からオーストラリアの野生動物保護への姿勢など様々なことを学び、そして得難い経験をすることができ本当に感謝しています。

2012 年 3 月トレーニングコース（上級） レポート

東京農工大学 藤井一希

私は現在獣医学を専攻しており、将来的に野生動物にかかわる研究者になりたいと考えていました。そのため、このコースに参加することで実際の現場を見ることができ、そして非常にユニークな動物のいるオーストラリアと日本を比較、相対化することで自らに新しい視点が得られればと思い参加することにしました。前に初級コースに参加してはいましたが、上級コースでは、コアラのレトロウイルスの講義や、現場の獣医師の立会のもとに行う病理解剖など専門的なものも増えとても充実していました。また、単一の施設ではなく、オーストラリアの様々な野生動物保護施設を回ることによってそこで働くボランティアやレンジャー、獣医師の多くの意見や考え方に触れ、自らの考え方と突き合わせていくことで新たな視点で物事を観察するということが再度意識することができました。

このコースを通して感じたことは、野生動物にかかわる人たちは本当に彼らを愛し、彼らをどうやって守るかを考えているということでした。彼らの守ることを目的として、教育や救護、調査、保護活動などの様々な手段がとられていて活動の多様性に感心するばかりでした。

私はこのコースに参加して非常に良かったと感じています。今回学んだ様々なことを生かし、日本でまた自らを磨いていこうと思います。



ハリモグラの処置

この他の参加者の体験談も AJWCEF のホームページに掲載されます。是非そちらの方もご覧下さい。

-イプスウィッチ コアラ保護協会-

IPSWICH KOALA PROTECTION SOCIETY

前回に引き続き、AJWCEF が支援・協力するイプスウィッチ・コアラ保護協会からのメッセージをお届けします。今回は 17 年に渡ってコアラのレスキュー活動をしている経験豊かなヘレンさんからのお話です。

『おかしいけれど本当の話。』 By Helen Darbellay

コアラには道路の感覚がありません。また、ふつう犬が襲ってくるまでは犬を敵だとも思っていない。コアラはただ木に登って、食べて、寝て、繁殖したいだけなんです。不幸にも、その過程において彼らは自分達をたくさんの奇妙な状況や困難に陥らせてしまうのです。

たとえばそれは、喉が渇いて水場の権利をかけてドーベルマンと闘ったコアラのように。珍しいことには、この時はコアラが勝利したのです。犬はしまいには脅かされメソメソし（とても悲嘆にくれて）コアラが犬の皿から水を飲んでいいる間、自分の犬小屋で体を丸めていました。（その犬の飼い主は、私に凶暴な動物を彼女の庭から取り除いて欲しいと頼む為に電話を掛けてきました——私は犬の方を取り除こうという気持ちに駆られました！）

若いオスのコアラは学校に行こうと決めました。彼はカミラ公立学校に入ろうとしましたが、殆どの生徒のように門を通り抜けられませんでした。また、わんぱくな生徒のようにフェンスを登る事も出来ませんでした。それでもそのフェンスを通り抜けてみようとしたのです。そして彼は完全にフェンスに嵌って動けなくなってしまいました。同じ週に二回も！明らかに、彼は一回目の失敗に懲りて教訓を得るという事がなかったのです！

ローズウッド駅で切符も買わずに電車に乗ったコアラもそうです。（おそらく彼は席を使わないのだから、切符が要るなんて思わなかったのでしょう。）彼は無銭乗車で「捕まり」、ワロン駅で強制的に電車から降ろされました。実際、これはちょっとしたジレンマを引き起こしました。——どこに彼を戻すのか。彼が来たところへ？それとも彼が行こうとしていたところへ？

アンバレーにあるオーストラリア空軍基地の警備室に行き着いてしまったコアラもいます。（これはちょっとした悩みの種です。それというのも、このコアラは警備を破っただけでなく、我らの訓練され恐れを知らない国防軍の隊員を酷く怖がらせてしまったのですから。事実、隊員たちは私がこのコアラを安全に保護するまで、私とコアラを閉じ込めてしまったのです）。

お母さんコアラと背中に乗った小さな赤ちゃんの話です。彼らは、道路の真ん中に長い時間座っていました。でもレスキュー隊が到着するまでにはいなくなっていました。やっと、とても高い木の上にお母さんコアラを見つけたのですが、赤ちゃんがいません。確かに赤ちゃんは背中に乗ってもしないし、お腹に抱っこされているでもなく、安全にお母さんの袋に入っているわけでもありません。深夜 2 時、4 人が一時間以上も懐中電灯を持って藪の中に入って落とされた赤ちゃんの搜索をしました。そんな中、お母さんコアラに安全にくっついた赤ちゃんが、私たちのすぐ頭の上のとても小さな木に座っているではありませんか。触れるほど近くで搜索を見ていたのです。これは典型的な、別のコアラと間違えたケースだったと判明したのです。私たちが最初に見つけたコアラはオスだったのです。（なるほど、通りでオスのコアラの背中や袋に赤ちゃんがいらない訳です）。お母さんコアラも、赤ちゃんも、偽者ママも、みんな順調でした。……でも、どれくらいの間、順調でいられるでしょう？その正に前日には、ブルドーザーが道路の反対側の生息地を破壊していたのです。

笑うのはここまでです……さあ、真剣になりましょう！全てのコアラ救助隊はこれと似たような経験談を持っています——「もしそれがそんなに悲しくないんだったなら、可笑しい」というタイプのお話を。私たちは、皆、「文明化」の重圧がコアラ達に押し付けられる時や、「開発」がこの世界の中の彼らの小さな部分に到達する時、また彼らの小さな世界がほぼ文字通り一夜にして消えてしまう時に、無邪気なコアラ達が経験する混乱を目撃してきたのです。

活動報告

2011 年 10 月から 2012 年 3 月まで

2011 年度オーストラリア野生動物保護セミナー及びトレーニングコース説明会

1. 11 月 3 日（木）可児市文化創造センター（岐阜県可児市）
環境保護講座 オーストラリア野生動物とその保護について学ぼう
『オーストラリアおもしろ動物クイズ』
『コアラの危機ーオーストラリア野生動物の現状とその保護』
クイーンズランド州立コアラ病院院長 アラン マッキノン 獣医師
『海外野生動物保護活動への参加ーオーストラリア』 AJWCEF 理事長 水野哲男
2. 11 月 4 日（金）麻布大学（神奈川県相模原市）
野生動物保護セミナー及びオーストラリア野生動物保護トレーニングコース説明会
『オーストラリアのユニークな動物たち』 AJWCEF 理事長 水野哲男
『コアラエイズ、ヘンドラウイルス感染症最新情報』
クイーンズランド州立コアラ病院院長 アラン マッキノン 獣医師
『海外野生動物保護活動への参加ーオーストラリア』 AJWCEF 理事長 水野哲男
『AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコース』 AJWCEF 理事長 水野哲男
3. 11 月 5, 6 日（土、日）日本獣医生命科学大学（東京都武蔵野市）
日本獣医生命科学大学大学祭
同時開催 国際シンポジウム（11 月 5 日、12 時 45 分より）
『希少野生動物園動物の保護と人工繁殖技術への挑戦』
セミナー
『オーストラリアおもしろ野生動物クイズ』 AJWCEF 理事長 水野哲男
『コアラの危機ーオーストラリア野生動物の現状とその保護』
クイーンズランド州立コアラ病院院長 アラン マッキノン
『コアラエイズ、ヘンドラウイルス感染症最新情報』 アラン マッキノン
『海外野生動物保護活動への参加ーオーストラリア』 及び『オーストラリア野生動物保護トレーニングコース』 水野哲男
『トレーニングコース体験談』 森春子、篠田珠美、篠崎瑞季
ビデオセッション『コアラミラクルー世界初人工授精で生まれたコアラ』
ビデオセッション『コアラ クライシス（コアラの危機）』
『コアラ病院長と話そう。フリートーク』 アラン マッキノン
4. 11 月 7 日（月）岡山理科大学（岡山県岡山市）
野生動物保護セミナー及びオーストラリア野生動物保護トレーニングコース説明会
『オーストラリアのユニークな動物たち』 AJWCEF 理事長 水野哲男
『コアラの危機ーオーストラリア野生動物の現状とその保護』
クイーンズランド州立コアラ病院院長 アラン マッキノン 獣医師
『海外野生動物保護活動への参加ーオーストラリア』 AJWCEF 理事長 水野哲男
『AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコース』 AJWCEF 理事長 水野哲男
5. 11 月 8 日（火）早稲田大学（東京都新宿区）
野生動物保護のための国際協力セミナー
『オーストラリアのユニークな野生動物とその保護への参加』 AJWCEF 理事長 水野哲男

6. 11月10日(木) 北里大学(青森県十和田市)

野生動物保護セミナー及びオーストラリア野生動物保護トレーニングコース説明会
『コアラエイズ、ヘンドラウイルス感染症最新情報』

クイーンズランド州立コアラ病院院長アラン マッキノン獣医師

『海外野生動物保護活動への参加ーオーストラリア』AJWCEF 理事長 水野哲男

『AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコース』AJWCEF 理事長 水野哲男

7. 11月12日(土) 帯広畜産大学(北海道帯広市)

野生動物保護セミナー及びオーストラリア野生動物保護トレーニングコース説明会
『オーストラリアのユニークな動物たち』AJWCEF 理事長 水野哲男

『コアラエイズ、ヘンドラウイルス感染症最新情報』

クイーンズランド州立コアラ病院院長アラン マッキノン獣医師

『海外野生動物保護活動への参加ーオーストラリア』AJWCEF 理事長 水野哲男

『AJWCEF オーストラリア野生動物保護トレーニングコース』AJWCEF 理事長 水野哲男

インターネット中継教育(パイロットスタディー)

1. 岐阜県可児市をクイーンズランド州 レッドランド市 クリーブランド州立高校と中継で結び、日本の自然、伝統的生活、環境保護活動などを日本語で紹介する中継教育を実施中。

2. オーストラリア ブリスベン市、レッドランド市、イプスウィッチ市、ゴールドコースト市などにある野生動物及び環境保護施設と岐阜県可児市にある可児工業高校を中継で結びオーストラリアの自然、生活、環境保護活動などを英語で紹介する教育活動を実施中。

上記の中継教育は、オーストラリア連邦政府及び豪日交流基金の後援事業で、クリーブランド高校と可児工業高校をモデル校として実施しています。

野生動物保護トレーニングコース

1. 初級トレーニングコース (2012年2月)

2. 上級トレーニングコース (2012年3月)

事業

1. ユーカリ植林事業

(モギルコアラ病院、プレンバイル小学校、ケンモア・サウス小学校、AJWCEFでの共同事業継続中)

2. オーストラリア日本研究交流事業

(クイーンズランド大学、日本獣医生命科学大学、モギルコアラ病院、デービッドフレー野生動物公園など)

メディア

1. “仲間由紀恵の蒼い地球6 絶滅危惧種の現実、そして、人類との共存”テレビ東京(2012年1月)

出版(本)

1. 『オーストラリア野生動物保護活動への参加』、世界の中のオーストラリア内、早稲田大学オーストラリア研究所監修、109-125頁、水野哲男 他10名、オセアニア出版社。

出版（学術論文など）

1. G. Simmons, P. Young, J. McKee, J. Meers, (Ed.) T. Mizuno., The epidemiology of koala retrovirus. *Journal of Veterinary Epidemiology*, 15: 449-454, 2011.
2. 坂本容詩江, 大石元治, 添田聡, 水野哲男, Allan McKinnon, Steve Johnston, 市原伸恒, 浅利昌男, 西田利穂, 尼崎肇, ウォンバットの耳下腺と下顎腺における炭酸脱水酵素 (CA) II, VI の局在について, 日本獣医学会学術集会講演要旨集, 151: 187, 2011.
3. 西堂智子, 大石元治, 添田聡, 水野哲男, Allan McKinnon, Steve Johnston, 市原伸恒, 浅利昌男, 西田利穂, 尼崎肇, オオカンガルーの耳下腺と下顎腺における炭酸脱水酵素 (CA) II, VI の局在について, 日本獣医学会学術集会講演要旨集, 151: 187, 2011.

学会発表など

1. S. Johnston, T. Mizuno., Genome resource banking of Australia's unique mammalian fauna: The current status, 日本獣医生命科学大学 創立 130 周年記念公開国際シンポジウム, 東京, 日本, 2011 年.

AJWCEF から他の野生動物保護活動への寄付 (2011 年 10 月 - 2012 年 3 月)

1. イプスウィッチ コアラ保護協会: \$ 400
2. モギルコアラ病院: \$ 2,400
3. クイーンズランド大学: \$ 900
4. Royal Society for the Prevention of Cruelty to Animals: \$ 100

イベント情報

スタディーツアー（現在募集中）

- ① 2012 年 6 月 25 日 - 6 月 30 日
オーストラリア野生動物スタディーツアー（プロフェッショナル）
開催地: オーストラリア クイーンズランド州
対象: 動物園動物や野生動物の管理などに従事されている飼育管理者や獣医師

トレーニングコース（変更の可能性あり ホームページでご確認下さい）

- ① 2012 年 8 月 18 日（土）～9 月 1 日（土）
オーストラリア野生動物保護トレーニングコース（初級）
開催地: オーストラリア クイーンズランド州



鎮静下のコアラ



入院するコアラの為のユーカリ植樹



木登りカンガルーへの給餌

（写真：2012 年第一回初級、二回上級トレーニングコースより）

AJWCEF スタッフ紹介

庄司亜香音

AJWCEF のブログメンバーをさせていただいている庄司亜香音です。現在、大学で獣医学を学んでいます。病理学の研究室に所属し、新たなことに会うたびにその奥深さに驚かされます。昔から動物が好きで、小さなころから獣医を目指し、中学に入ってから専門的な学問としての生物学に魅せられました。野生動物とそれに関わる現場をみたいと思い、昨年 AJWCEF のトレーニングコースに参加させていただきました。日本では見られないようなオーストラリア独特の生物に多く出会えたこと、様々なジレンマの存在を含む生の現場を垣間見られたことは自分の将来を考えるにあたって、とても参考になりました。今後も心身ともにタフな人間目指しつつ、動物に精いっぱい関わっていきたいと思っています。



ーAJWCEF 会員ボランティアからのメッセージー

G'Day,mate! 3 月に日本獣医生命科学大学を無事に卒業いたしました、高橋めいと申します。



学生時代は AJWCEF の初級・上級コースに参加、COP10 や、日獣の文化祭でお手伝いをしたりと、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。そのおかげもあってか、この 4 月から動物園内の研究施設で働いています。オーストラリアでは有袋類の興味深い特徴をたくさん学ばせてもらい、「世界にはまだまだおもしろい生き物がたくさんいる！彼らを守り、残し、伝えていかなければならない！」と強く思いました。そしてその気持ちが現在の職場への志望動機にもなりました。また地元の方の野生動物との関わり方も知ることができ、「日本ではどうだろう？」と様々なボランティアに積極的に参加できたことも、オーストラリアの経験があつてのことだと思っています。思えば卒業論文にヘアリノーズドウォンバットを選んだことも、オーストラリアで有袋類大好き人間になってしまったからです…。

現在の職場では、繁殖に関する手技・手法をたくさん用います。動物園動物すべてが対象なので、コアラやキノボリカンガルーも研究しています。まだ働き始めて 1 ヶ月も経っていないルーキーですが、たくさんのことを吸収し、世界の野生動物保護に邁進していきたいと思っています。そしてお金を貯めてまたオーストラリアへ行くことも、夢の 1 つです！

AJWCEF 会員の中には、様々な形で野生動物保護に関わっている方が全国各地（世界各地?!）にいらっしゃいます。多種多様な方面から野生動物を支えることができれば、きっと彼らを守り、残し、伝えていくことができることでしょう！私もその 1 人として、自分にできることを精一杯がんばっていこうと思います。それでは皆様、いつの日かまたオーストラリアでお会いしましょう！

会員 (個人・法人) 募集 及び 支援寄附のお願い

皆さまのご支援が小さな命を助けます

詳細は、AJWCEF のサイト www.ajwcef.org で『参加・協力』のページにお進みください。

ニューズレター発行元
オーストラリア野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野哲男
編集担当 平野聡美
ホームページ www.ajwcef.org
住所 PO Box 1362 KENMORE,
QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA
電話 +61 7 3374-3909 FAX +61 7 3374-3531